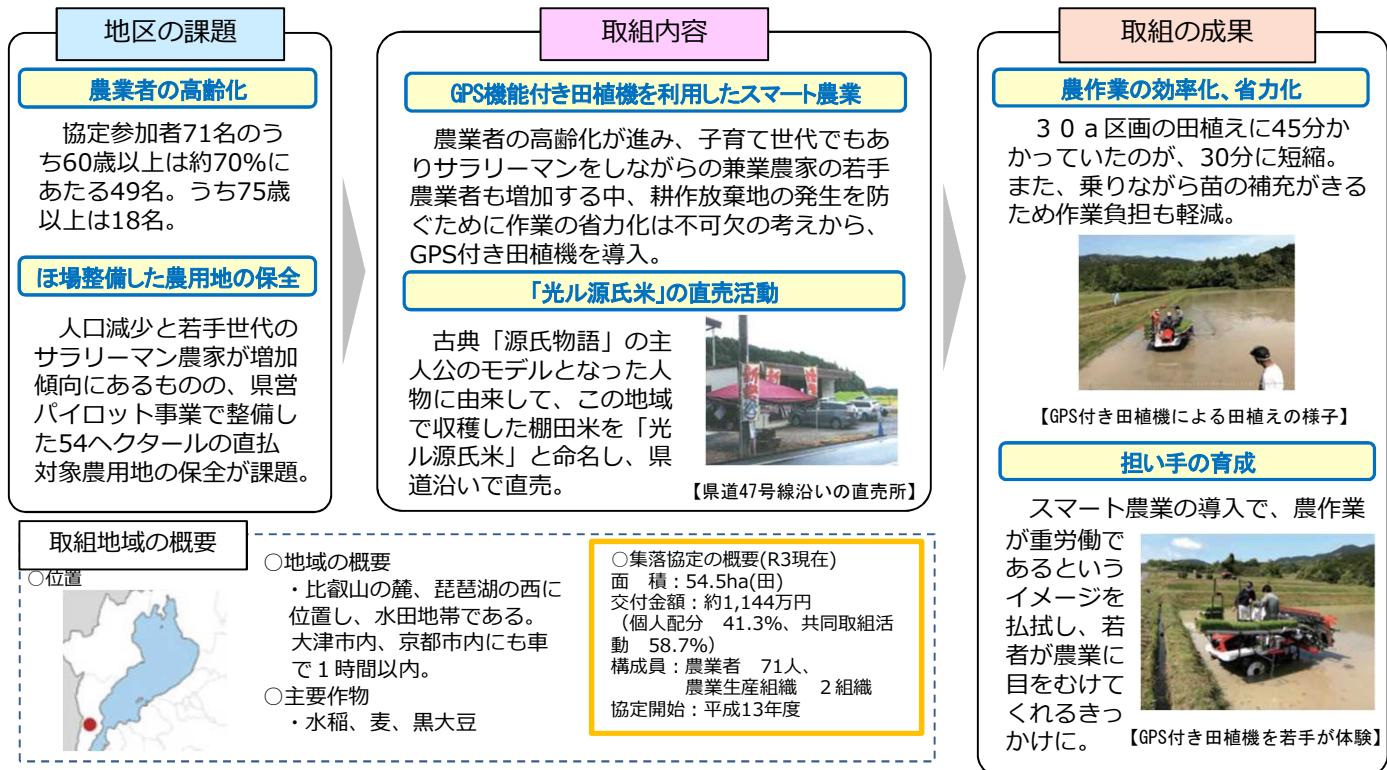


スマート農業による省力化で若手の農業継続をバックアップするとともに、棚田米を「光ル源氏米」と命名し、直売による販路拡大に取り組む。

- 最先端機械導入により若い世代との会話のきっかけを作り、農作業に興味を持つことで田植えに参加。
- 地域の歴史上の人物にちなんだブランド名で棚田米を直売し、農家の収益向上を目指す。



1 地区の概要

(都会からそう離れていなくても地元から離れていく若者)

——地区の概要を教えてください。

大津市中心部を繋ぐJAの電車やバスの運行本数が減り、公共交通手段による交通の便が不便になってきたことが原因かもしれません。若い世代が減ってきました。農業の担い手も同様に減ってきてています。新たに空き家に引っ越しをしてくる方もいることはいますが、農業をされているわけではありません。数十年前は小学校の1学年に同級生が十数人いましたが、今は1人とか2人とかという状況になっています。

稲作がメインの地区で、昭和40年代は専業農家ばかりでしたが、今は兼業農家のみです。

2 地区の抱える課題

(米を作れば赤字。高齢者が多い中でどうやって農地を守つていけばいいか苦悩)

——地区はどのような課題を抱えていましたか？

土地改良事業で整備をして形のよい農地にもらっていることもあります。平成13年に集落協定を立ち上げたときから耕作放棄地を出さないようにしなければならないと頑張ってきました。しかし、米の価格が低迷し、人件費や肥料代などで経営は赤字。協定開始当初のメンバーがだんだん歳を重ねて高齢化し、若手は増えてこない中でどうやって農地を守つて維持していくために何かしなければならない状況でした。

3 取組の経緯

(市役所から「試行加算となった生産性向上加算」に関する情報提供)

——取組を始めたきっかけを教えて下さい。

「農作業は重労働」という若者にとってのイメージを払拭させることが必要ということが協定参加者の共通認識としてありました。省力化のためにはスマート農業への取組が不可欠ですが、機械は高価で個人で購入することは不可能です。そのような中で、市役所からスマート農業に取組めば交付金の加算措置の適用になるという情報提供があったことから導入に踏み切りました。

4 取組の内容

(交付金の加算金を活用し、GPS付き田植機を購入。また、ブランド米を直売し販路拡大)

——交付金を活用してどのような取組を行いましたか？

平成18年に営農組合「南庄集落営農センター」を組織しました。令和元年11月に交付金で購入したGPS付き田植機を1台購入し、以降営農センターで管理をしています。営農センターで農作業を受託しています。令和2年度の作業受託した面積は約7haでしたが現在は約13haまで増えています。

——その他にも何か取組されたことはありますか？

販路拡大や売り上げ確保のため、収穫した棚田米を「光ル源氏米」と命名しブランド化。9月上旬から10月末までの土日祝日に県道に面した営農センターの倉庫前に臨時直売所を開設し、新米を販売しています。「美味しかったので」と毎年楽しみにして購入にくるリピーターのお客さんもおられます。



【光ル源氏米】

5 取組の成果

(農作業の省力化、効率化だけじゃない。最先端機械が若者とのコミュニケーションのきっかけに)

——取組の成果はありましたか？

データは取っていませんが、田植えのときの個人的な感覚となります。労働時間は、従来の機械では30aで45分くらいで作業していたが、GPS付き田植機だと30分くらいでできます。GPS付き田植機は、作業時間の短縮が図れるだけでなく、直線アシストによる自動操縦でまっすぐ植えることができることと、苗の補充が田植え作業しながらできるなど効率的に作業できるところが非常に大きい利点です。



【GPS付き田植機による作業の様子】

農地を守っていくには、若い力はどうしても必要です。若者には、しんどいと思われている農業を楽しみながら取り組んでもらうことが大事だと考えています。最先端機械の導入で興味をもった若者は増え、田植えに参加しています。また、親子で話をするきっかけにもなっています。



【導入している機械】

「光ル源氏米」の販売を始めてから2割程度収入が増加しました。また、臨時直売所が主要道路沿いにあり、大阪や京都からくる人に多く立ち寄ってもらうことができ、南庄のお米のおいしさを知ってもらっています。LINEやはがきで販売開始日や収穫量を発信するなど工夫しています。



6 人材、資源、制度の活用方法、工夫

(草刈り作業で交付金を活用、光源氏のモデルが住んでいた由緒ある地域であることもPRに利用)

——交付金はどのように活用しましたか？

3反の田んぼを受託すると1反の畦畔がついてくるような状況です。その草刈り作業も、傾斜が最高45度あるところもあり重労働です。営農センターでは、作業受託の中に草刈りも含めて受託した場合には、13,000円もらっています。そのうちの10,000円は交付金の個人配分した額を充当しています。それにより実質自己負担分は、3,000円となります。

——地域資源等何か活用されましたか？

この地域には、古典「源氏物語」の主人公光源氏のモデルと言い伝えのある「源融（みなもとのとおる）」という人物の閑居があり、その方を祀った「融神社」があることから「光ル源氏米」と直払組当初の協定の代表者が命名しました。

7 地区の今後に向けて

(加算金を活用して世代間交流が図れる場所づくりも検討)

——地区の今後について教えてください。

棚田を見ながら若い世代も一緒にみんなでバーベキューできる場所を整備したいと考えています。田んぼに目をむけてもらい、興味を持ってもらえば、将来を話し合うきっかけづくりにもなると思い、これからも地域一丸となって、地域コミュニティの維持に頑張って取り組んでいきたいと考えています。



【地区の今後について話し合い】